

Ⅱ 英語の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

- ◎ 「大問・領域」にはその「言語活動の内容」と「能力」を示した。「設問のねらい」には小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」の4観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の概要と分析」について

- ◎ 調査結果の分析については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続して見られる課題」を示した。
(◇：良好な結果がみられた点 ◆：課題がみられた点 ○：指導のポイント)

3 「領域別調査結果の指導のポイント」について

- ◎ 大問ごとに設問・正答・結果・誤答例等について左ページに、課題のある設問についての分析と指導のポイントを右ページに記した。
- ◎ 分析等では、小数第2位を四捨五入した調査結果を用いている。
(※誤答例は、抽出生徒の主な誤答について頻度の高いもの)

1 設問のねらいと評価

評価の観点 1…コミュニケーションへの関心・意欲・態度 2…外国語表現の能力
3…外国語理解の能力 4…言語や文化についての知識・理解

領域	大問	小問	設問のねらい	評価の観点			
				1	2	3	4
聞き取りの能力	1	(1)	英語での問いかけを聞いて、その内容を理解し、適切な応答を選択することができる。			○	
		(2)				○	
		(3)				○	
	2	(1)	会話などを聞いて、絵の内容に合っている適切な英文を選択することができる。			○	
		(2)				○	
		(3)				○	
		(4)				○	
	3	(1)	会話を聞いて、場面や要点を理解し、適切な答えを選択することができる。			○	
		(2)				○	
		(3)				○	
読解の能力	4	(1)	会話を読んで、情報を理解し、内容に合う適切な日本語や絵を選択することができる。			○	
		(2)				○	
		(3)				○	
		(4)				○	
	5	(1)	手紙文を読んで、概要や要点を理解し、適切な答えを選択することができる。			○	
		(2)				○	
対話の流れや場面の理解	6	(1)	会話を読んで、場面や会話の流れに合う適切な英文を選択することができる。			○	○
		(2)				○	○
慣用表現等の知識	7	(1)	会話を読んで、場面に応じた適切な慣用表現を選択することができる。			○	○
		(2)				○	○
表現の能力	8		自己紹介の内容を考えて、適切な英語で書くことができる。	○	○		
	9		絵の内容に合っている適切な英文を書くことができる。		○		
文法・語の理解	10	(1)	与えられた英語の語句を並べ替えて、正しく書くことができる。		○		○
		(2)			○		○
		(3)			○		○

2 調査結果の概要と分析

全 体		<p>◇全体の正答率は 77.5%であった。設定通過率 70%を考えると、おおむね満足できる。</p> <p>◇小学校で英文を聞くことに慣れてきていることを踏まえた指導が行われてきたことで、基本的な聞き取りの能力はしっかりと身に付いていることが分かる。</p> <p>◇英文を正確に読み、理解する能力についても、正答率が設定通過率をおおむね超えており、満足できる。</p> <p>◆表現の能力については、正答率が設定通過率を下回った。語順などの文法的な知識を身に付けることや基本文を正確に表現することに課題がある。</p>
領 域 別	聞き取りの能力	<p>◇聞いた英文を絵や図などを通して視覚的に理解し、文字を介さず英文の内容を理解する能力が身に付いている。</p> <p>◇会話を聞いて会話場面をとらえる問題の正答率が高く、それぞれの英語表現がどのような状況で使用されるかの判別が身に付いている。</p> <p>◆動詞の正確な聞き取りや意味の理解に課題がある。</p> <p>○5W1Hを使用した疑問文の質問と答え方、日常的な会話表現や基本文などの重要表現をスパイラルに指導し、適切に受け答えができるようにさせる。</p>
	読解の能力	<p>◇視覚的な情報（絵）が与えられている問題については、英文の内容を理解しやすい傾向がある。</p> <p>◇1, 2文程度の対話文の場合、話の流れを把握し、内容を理解する力はおおむね身に付いている。</p> <p>◆まとまった英文の内容を、全体像や文脈を把握しながら読み取ることに課題がある。</p> <p>○時間の流れを追って、5W1Hを確認しながら内容を理解させることが大切である。</p>
	対話の流れや場面の理解 慣用表現等の知識	<p>◇対話の流れをおおむね理解し、適切な応答を選ぶ力は身に付いている。</p>
	表現の能力	<p>◇4文以上で自己紹介を記述する問題はおおむねできている。また、無解答率が下がったことから、書くことに対し、積極的になっていると考えられる。</p> <p>◆一般動詞と、be 動詞の使い方を理解できていない生徒が多い。</p> <p>◆現在進行形で表現する問題では、be 動詞や動詞“ing”の綴り字が欠如しているなど、現在進行形の形を理解できていない生徒が多い。</p> <p>○基本文の形を定着させるために、「ピクチャーチャート（絵）」を用いて、基本文が正確に言えて書けるように繰り返し練習させる。</p>
	文法・語順についての理解	<p>◆疑問詞のみで使う表現と、疑問詞＋名詞の表現を区別できていない生徒が多い。How many ＋名詞やWhat＋名詞を先頭に置くという文法が定着していない。</p> <p>○How do you come?とHow many notebooks do you have?のHowは意味が異なることや、What do you like?よりもWhat sport do you like?ではさらに詳しいことについて尋ねられることに気付かせる。また、このような違いに慣れさせるために、1年生から系統的に指導することが大切である。</p>
課題 継続してみられる		<p>◆現在進行形の文構造が身に付いていない。特に、現在分詞は書けているが、be 動詞が欠如している誤答が多くみられる。</p> <p>◆自己紹介の英文は、英語の授業や英会話で多く行われているため、正答率が高く、無解答率も低くなっている。しかし、第三者について表現する場合は無解答率も高く、苦手意識をもつ生徒が少なくない。</p> <p>◆疑問詞＋名詞の語順が身に付いていない生徒が多い。</p> <p>◆of を用いた後置修飾の語順については、平成 24 年度より正答率が上昇しているが、まだ6割程度である。</p>

3 領域別調査結果の指導のポイント

(1) 聞き取りの能力

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
1	①	問いかげに対する適切な英文を選ぶ。 How do you come to school? ア I come to school every day. イ I come to school by bus. ウ I come to school on Monday. エ I come to school with my friends.	イ	ア		77.7	0.8	70
	②	問いかげに対する適切な英文を選ぶ。 Are you a baseball fan? ア No, it's not. イ No, I don't. ウ Yes, I am. エ Yes, I can.	ウ	イ		86.5	0.6	
	③	問いかげに対する適切な英文を選ぶ。 What day is it today? ア It's Thursday. イ It's fine. ウ It's June 2 nd . エ It's one o'clock.	ア	ウ		79.3	0.6	
2	①	絵に合った英文を選ぶ。 Where is my notebook? ア It's in the desk. イ It's near the desk. ウ It's by the desk. エ It's on the desk.	エ	ア		87.4	0.4	80
	②	絵に合った英文を選ぶ。 What time is it now? ア It's three-o-five. イ It's three fifteen. ウ It's three fifty. エ It's five thirty.	ウ	イ		79.8	0.4	
	③	絵に合った英文を選ぶ。 This is my friend Ted. ア He can read kanji. イ He can write kanji. ウ He can read English. エ He can write English.	ア	イ		69.2	0.6	
	④	絵に合った英文を選ぶ。 My father is in his room. ア He is reading a newspaper. イ He is using a computer. ウ He is writing a letter. エ He is listening to music.	ウ	ア		88.3	0.4	
3	①	どのような場所での会話ですか。 A: Can I help you? B: Yes, please. I'm looking for a T-shirt. A: What color do you want? B: I want a blue one. ア 駅 イ レストラン ウ 本屋 エ 衣料品店	エ	ア		96.5	0.4	80
	②	何をしている時の会話ですか。 A: This is a picture of my sister. B: How old is she? A: She is 25. She is an English teacher. B: That's cool!. ア 道案内をしているときの会話 イ 人を紹介しているときの会話 ウ 電話をしているときの会話 エ 趣味について話しているときの会話	イ	ウ エ		95.6	0.2	
	③	何についての会話ですか。 A: What's your favorite sport? B: I like soccer. I usually play soccer on Sundays. A: Where do you play? B: I play it at Midori Park. ア 好きな教科についての会話 イ 学校の授業についての会話 ウ 好きなスポーツについての会話 エ 公園までの道のりについての会話	ウ	ア エ		98.0	0.3	

(単位: %)

聞き取りの能力

問題

- 1 あなたが ALT の先生に (1) How do you come to school?
(2) Are you a baseball fan?
(3) What day is it today?
- 2 (3) A: This is my friend, Ted.
B: ア He can read kanji.
B: イ He can write kanji.

分析

1 は、問い掛けに対する適切な英文を選ぶ問題である。

1 全体の正答率は 81.2% であった。平成 24 年度の 1 の正答率が 60.6% であったことを考えると正答率がかなり上昇したことになる。これは (1) や (2) のように、問い掛けとして用いた英文と同じものが、教科書の基本文や本文として用いられていることが要因と考えられる。

2 は会話などを聞いて、場面を表す絵を選ぶ問題である。

2 全体の正答率は 81.2% であった。その中で (3) は、聞き取りの問題で最も正答率が低く、69.2% であり、誤答としては「イ」が多かった。これは動詞の正確な聞き取りができなかったことと、意味の理解が十分できていないからと考えられる。

3 は、会話を聞いて、場面や要点を表す適切な答えを選ぶ問題である。

3 全体の正答率は 96.7% であった。キーワードを正確に聞き取り、その場面をとらえる力は十分身に付いていると考えられる。

指導のポイント

1 日常的な会話表現や基本文はスパイラルに指導し、質問に合った受け答えが適切にできるようにする

1 (1)、(2) の基本文を用いた問い掛けや (3) の What day is it today? のように、ほぼ毎時間、授業で用いられている問い掛けには、しっかりと答えられている。授業において、よく使われる表現や重要な表現についてはスパイラルに指導していくことが効果的である。

2 重要な動詞はイメージと共に理解させる

ピクチャーチャートを用いた Oral introduction や、教科書のアクションタイム、視聴覚教材などを活用し、動詞の意味をイメージとともに理解させる工夫が必要である。

(2) 読解の能力

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
4		会話の内容から、2人の計画を選ぶ。 Emma: Hello. Takashi: Hello, this is Takashi. Emma: Oh, hi Takashi. Takashi: Are you free on Sunday? Let's go to the Tokyo Skytree (1) Emma: Good idea! Takashi: We can have lunch in the park near there. Emma: OK. Then let's go to Asakusa by train. Takashi: Nice!	ア	イ ウ		86.8	0.5	
		会話の内容から、2人が見ている写真を選ぶ。 Rie: Look at these pictures. Sam: Oh, nice pictures! Who is playing soccer? Rie: They are my brothers. They like soccer very much. Sam: Who is swimming? Rie: That's my father. He's good at swimming. Sam: Wow! And is she your mother? Rie: Yes. She likes volleyball very much. But she doesn't play volleyball. She often watches volleyball on TV. ア イ ウ エ	イ	エ		76.3	0.6	
		会話の内容から、ジュディの部屋を選ぶ。 Matt: What do you have in your room? Judy: I have a computer. Matt: Where is your computer? Judy: It's on the desk. Matt: Do you have a clock? Judy: Yes, I do. My clock is by the bed. Matt: Good. Do you have a piano? Judy: No, I don't. I have a guitar. Matt: Really? Where is your guitar? Judy: It's by the desk. ア イ ウ エ	エ	イ		83.9	0.6	
		会話の内容から、トモコが選んだと思われるカードを選ぶ。 店員: Can I help you? Tomoko: Yes, please. Today is my mother's birthday. So I want a card for my mother. 店員: Do you want a Japanese card? Tomoko: No. I want an English one. 店員: How about this one? The dog is popular with many people. Tomoko: It's very cute. But my mother doesn't like animals. 店員: I see. How about this one? Tomoko: Oh, it's nice for her. She likes music very much. ア イ ウ エ	ア	イ		83.7	0.7	

(単位: %)

読解の能力

問題

④ (1) 前頁参照

⑤ 報告書 p.12 参照

分析

④は、会話文を読み、その内容に合う表や絵を選ぶ問題である。

④の全体の正答率は 86.8%であったが、(2)の正答率は 76.3%と④の中で最も低かった。

誤答はエが多く、Sam の Who is playing soccer? に対しての Rie の答え、They are my brothers.を正しく読み取れないことによる誤答であった。

⑤は、手紙の内容について要点を理解し、内容に合うものを選択肢の中から選ぶ問題である。

⑤全体の正答率は 63.9%で、平成 23 年度、平成 24 年度結果と比べると 3 ポイント程度下がっている。(1)では、誤答として「ウ」が最も多く、手紙の内容の全体像をつかまずに、Nikko (地名)、Toshogu (歴史的建造物名)、Japanese history のような語句から連想して選んでしまったためと考えられる。(2)も同様に、誤答として「イ」や「エ」が多く、「イ」は August 10 や the Kegon Falls、「エ」は pictures から選んだと考えられる。どちらも、文脈をじっくりと追わずに、意味のわかりやすい語句だけで安易に判断した誤答であると考えられる。一文一文を丁寧に読み、文脈を追いながら内容を理解することが必要である。

指導のポイント

1 人称代名詞を正しく理解する力を付けさせる

具体的な名前があれば、主語が誰のことを指しているのかを認識することは難しくはない。しかし、人称代名詞を活用した英文となると、「誰が」を理解することの難易度は高くなる。たくさん種類がある人称代名詞を正しく認識するためには、語としての知識だけでなく、実際に活用しながら語の意味と活用する場面を理解する必要があると考える。普段から人称代名詞を活用し、それが何を指しているのかを理解できるようにするために、日々の授業の中で、Oral introduction や Oral interaction を取り入れていく必要がある。また、読解練習の際に、継続的に人称代名詞や代名詞が何を指しているのかを意識させた指導も必要である。

2 まとまった英文を読み、全体像や具体的な情報について把握する力を付けさせる

まとまった英文を読んで内容を理解する問題は、絵が与えられた問題と比較すると、生徒にとっては難易度が高いと感じられるようである。特に英語を苦手とする生徒は、英文を丁寧に読むことをあきらめ、目にとまったわかりやすい語句や文だけから解答をしてしまう傾向がみられる。

まとまった英文を読んで、内容が理解できるようになると、英語学習に対する意欲の向上につながる。読み物教材の指導を通して、生徒にわかることの楽しさを味わわせるためには、以下のような工夫が考えられる。

- ① 様々な難易度の T(true)-F(false)や Q(question)-A(answer)の問題を行い、どのレベルの生徒も取り組みやすくする。
- ② T-F や Q-A の問題の中に、時間の流れや動作主を問う問題を取り入れ、事実関係を整理しながら読む力を付ける。
- ③ 英文の速読の力を付けさせるために、日本語の語順ではなく英語の語順で、内容の確認をテンポよく行う。
- ④ ワークシート等を用いて、要点や全体像を把握させる活動を行う。
- ⑤ 付録の読み物教材を用いて、文章の要点をとらえる練習を行う。

【指導のポイントを踏まえた実践例 1】

1 Oral introduction 及び Oral interaction の中での指導例

(1) 生徒の発言を、代名詞を使って言い換える。

場面：Picture card 見せながら、本時の内容について Oral introduction をしている。

T: Look at this picture. What does Yuki have?

S: Yuki has a T-shirt.

T: Good. She has a T-shirt. What does Takeshi have? (絵の Yuki を指しながら)

S: Takeshi has two CDs.

T: Yes. He has Two CDs. What are Yuki and Takeshi doing? (絵の Takeshi を指しながら)

S: Yuki and Takeshi are selling T-shirts and CDs.

T: Oh, they are selling T-shirts and CDs. Good. (絵の Yuki と Takeshi を指しながら)

(2) 人称代名詞を使って、表現させる。

場面：インタビュー活動（仲間探しゲーム）をした後、教師がどんな仲間が集まったかについて Oral interaction をしている。

T: Time up. Stop talking and sit down with your friends. Now, I'll ask you a question. Please answer it.

What color do you like? This group, please?

G1: I like blue.

T: It's good. But one, two, three, four ... Four members are in this group. So...

G1: We like blue.

T: Very good. How about this group?

G2: We like Yellow.

T: Good job. Then I'll ask a little difficult question. What color do they like?

G2: They like blue.

2 ワークシートを活用した人称代名詞及び代名詞の指導の工夫

【Program 2①のまとめ】

Mike and Yuki are in the classroom. ①Mike and Yuki are talking about their summer vacation. ②Yuki is going to visit Finland this summer. Yuki is going to stay in Finland for one week. Finnish people speak Finnish. But ③Finnish people also speak English and Swedish. So Yuki can talk with ④Finnish people in English.

☆下線部①～④を代名詞で表しなさい。

- ① 様々な難易度の **T-F** や **Q-A** を行い、どのレベルの生徒も取り組みやすくする。
- ② **T-F** や **Q-A** の問題の中に、時間の流れや動作主を問う問題を取り入れ、事実関係を整理しながら読む力を付ける。

(1) Yuki has a book about dolphin. ()

(2) Dilo is Yuki's brother. ()

(3) Debra and Robin are Dilo's friends. ()

(4) Debra is Robin's brother. ()

(1) Did Mike arrive in Washington, D.C. on January 5th? _____, he _____.

(2) Where is Mike staying? He _____ at _____.

(3) When did Mike visit the history museum? He _____ there on _____.

(4) Did Mike learn a lot about Japanese history? _____, he _____.

＜具体例＞ 長い英文で、意味のまとまりごとに斜線を入れさせ、文の初めから順に意味を確認させる。

- ① 英文に斜線を入れる。
- ② 斜線ごとに、英語の語句を日本語にし、英語の語順で日本語の内容を確認する。
- ③ 正しい語順の日本語で表わす。

② 私たちは / 時々 / それを目にする / 教室で / アメリカで (の)。
③ 「私たちは、時々アメリカの教室でそれを目にする。」

② あなた方は / 使う / 同じジェスチャーを / 日本で / も。
③ 「あなた方は日本でも同じジェスチャーを使う。」

⑤ 付録の読み物教材を用いて、文章の要点をとらえる練習を行う。

(1) 国立航空宇宙博物館の人気の度合いを具体的に説明しなさい。
()

(2) その博物館で Mike が見学したアポロ 11 号が果たした役割について説明しなさい。
()

(3) Mike が見学したライト兄弟の 1903 年製フライヤーについて説明しなさい。
()

(3) 対話の流れや場面の理解 慣用表現等の知識

大問・領域	小問	問 題	正答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
5	August 10, 2012 Dear Mike, How are you doing? I arrived in Nikko with my family three days ago. Now we are staying at my uncle's house. We went to the Kegon Falls yesterday. The Kegon Falls are very nice. I took a lot of pictures there. Today, we visited Toshogu. It is so big and beautiful. I saw old buildings, pictures, a special horse, and other things there. I learned a lot about Japanese history. We had a very good time there. Your friend, Yuki							
	①	ユキがマイクに最も伝えたいことを1つ選ぶ。 ア ユキの普段の生活について知らせること。 イ ユキの夏の出来事について知らせること。 ウ 日本の歴史について知らせること。 エ ユキのおじをマイクに紹介すること。	イ	ウ		64.7	1.1	70
	②	本文の内容と合うものを1つ選ぶ。 ア ユキは、おじと日光に住んでいる。 イ ユキは、8月10日に華厳の滝に行った。 ウ ユキは、8月10日に日光東照宮に行った。 エ ユキは、華厳の滝の絵を描いた。	ウ	イ エ		63.1	1.0	
	①	対話文中に当てはまる文を選ぶ。 Brown: Hi, Yumi. What are you doing? Yumi: We are cleaning now. Can you help us? Brown: () Yumi: Thanks. You are very kind. ア Yes, of course. イ Sorry, I'm busy now. ウ Me too. エ No, I can't.	ア	エ		85.0	0.8	70
		対話文中に当てはまる文を選ぶ。 店員: Can I help you? Mike: Yes, please. I'm looking for a sweater. 店員: How about this one? Mike: That's nice. () 店員: Thirty dollars. Mike: OK. ア How long does it take? イ How are you doing? ウ How do you come here? エ How much is it?	エ	ウ		86.6	1.0	
	①	対話文中に合う慣用表現等を選ぶ。 Mark: Excuse me. Kaori: Yes? Mark: It's hot now. Can you open the door? Kaori: () ア Thank you. イ Sure. ウ Here you are. エ Me too.	イ	ウ		86.6	1.0	70
		対話文中に合う慣用表現等を選ぶ。 Emi: What did you have for dinner last night? Bill: I had sushi. I like it very much. Emi: Me too. Bill: () Emi: I had curry. It's my favorite food. ア You're welcome. イ I'm sorry. ウ That's OK. エ How about you?	エ	ウ		87.3	1.1	

(単位: %)

対話の流れや場面の理解 慣用表現等の知識

問 題

[6]は対話文中にあてはまる文を、[7]は対話文中にあてはまる慣用表現を選ぶ問題である。

- | | |
|--|---|
| <p>[6] (1) Brown: Hi, Yumi. What are you doing?
 Yumi: We are cleaning now. Can you help us?
 Brown: ()
 Yumi: Thanks. You are very kind.</p> | <p>ア Yes, of course.
 イ Sorry, I'm busy now.
 ウ Me too.
 エ No, I can't.</p> |
| <p>(2) 店員: Can I help you?
 Mike: Yes, please. I'm looking for a sweater.
 店員: How about this one?
 Mike: That's nice. ()
 店員: Thirty dollars.
 Mike: OK.</p> | <p>ア How long does it take?
 イ How are you doing?
 ウ How do you come here?
 エ How much is it?</p> |
| <p>[7] (1) Mark: Excuse me.
 Kaori: Yes?
 Mark: It's hot now. Can you open the door?
 Kaori: ()</p> | <p>ア Thank you.
 イ Sure.
 ウ Here you are.
 エ Me too.</p> |
| <p>(2) Emi: What did you have for dinner last night?
 Bill: I had sushi. I like it very much.
 Emi: Me too.
 Bill: ()
 Emi: I had curry. It's my favorite food.</p> | <p>ア You're welcome.
 イ I'm sorry.
 ウ That's OK.
 エ How about you?</p> |

分 析

[6]は対話文を読んで、その流れや場面を把握し、自然な会話になるように適切な文を選ぶ問題である。

正答率は、(1)が85.0%、(2)が86.6%であり、設定通過率70%を考えると、満足できる状況である。(1)はYumiの“Can you help us?”が依頼を表す表現であること、直後の“Thanks. You are very kind.”から、肯定的な応答であったことを読み取ることがポイントである。(2)は買い物での会話であることは示されているので、場面を読み取る必要はない。店員の“Thirty dollars.”が読み取れば、金額を尋ねる英文「エ」を比較的容易に選ぶことができたと考えられる。

[7]は対話文を読んで、その流れや場面を把握し、適切な慣用表現を選ぶ問題である。正答率は(1)が86.6%、(2)が87.3%であり、設定通過率70%を考えると、[6]同様満足できる状況である。(1)は[6]の(1)と同じく、“Can you open the door?”が依頼を表す表現であることが読み取ることができれば、容易に“Sure.”を選ぶことができたと考えられる。

(2)は平成24年度に正答率が57.0%であった問題と同一の、“How about you?”を選ぶ問題である。今年度の正答率は87.3%と高かった。()に対する返答が“I had curry.”という単純な文であり、Billの“I had sushi.”と比較しやすかったので、容易に答えを導き出しやすかったと考えられる。

[6]、[7]ともに正答率が高いことから、小中学校での英会話や英語の授業における指導の効果が表れていると考えられる。

指導のポイント

1 一問一答から3往復の対話に

5W1Hの疑問詞を導入した際の対話練習を行う場合、一問一答の対話で終わるのではなく、3往復程度の対話を行うことで、対話の流れを意識した言語活動に発展していく。

例えば、授業導入時の教師と生徒との対話を考えた場合、

T: What day is it today?

S: It's Wednesday.

といった、一問一答形式の対話を行うことがあるが、

T: What day is it today?

S: It's Wednesday.

T: How many classes do you have on Wednesdays?

S: We have six.

T: What do you study in the afternoon?

S: We study math and science.

または、

T: What day is it today?

S: It's Wednesday.

T: Do you like Wednesday?

S: Yes, I do.

T: Why?

S: We have P.E.

というように、3往復程度の対話に発展させることにより、対話の流れを予測する力が身に付いたり、様々な疑問詞を使った質問への対応の仕方が身に付いたりすると考えられる。

2 スキットづくり

質問と応答が繰り返されるスキットを自分たちで考えることにより、子どもたちの創造性を刺激しながら、対話の流れや質問に対する適切な応答を身に付けることができる。

買い物、電話、道案内など、様々な場面に応じた対話を教科書等で十分に練習した後、ペアやグループでオリジナルのスキットを考えさせる。このとき、ヒントとしてよく使う慣用表現を黒板に板書しておくなど、できるだけ多くの種類の対話が生まれるように支援する。また、スキットを自分たちで演じることによって、対話の流れが不自然なところに気付いたり、適切な慣用表現の使い方を身に付けたりすることができる。

また、スキットづくりに時間が割けない場合、より手軽な方法として、4コママンガのセリフを考えさせるのもよい。人物の表情や状況からセリフを考え、自然な流れの対話を完成させる。生徒の関心も高く、意欲的に取り組むことができる。

【指導のポイントを踏まえた実践例】

4 コママンガのセリフを考える活動（個人またはペアワーク）



例

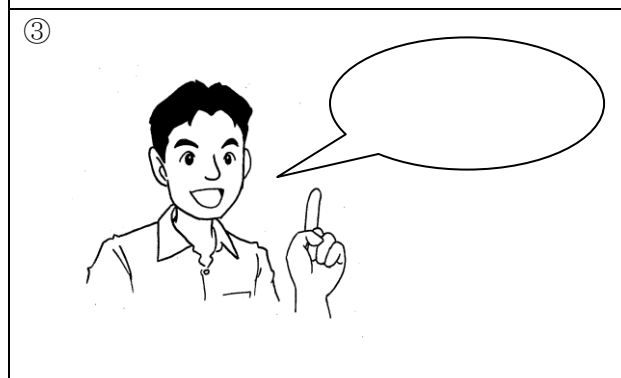
A: Excuse me.

B: Yes.



例

A: Can you help me with my Japanese homework?



例

B: Sure. By the way, can you help me with my English homework?




例

A: Of course.

B: Thank you. It's "give and take".

(4) 表現の能力 文法・語順についての理解

大問・領域	小問	問題・＜正答＞・〔主な誤答例〕	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
8		英語で自己紹介をする。 My name is に続けて 4 文書く。 ＜正答例＞ My name is Takashi. I like basketball. I can play basketball well. I am on the basketball team. 等 〔誤答例〕 ・ I m play soccer. (文法上のミス) ・ a(an)や the の欠如 ・ 綴りのミス		68.9	5.0	70
9		絵を見てサトシ (Satoshi) が今していることを 4 語以上で書く。  ＜正答例＞ Satoshi (He) is playing tennis. 等 〔誤答例〕 ・ Satoshi playing tennis now. ・ Satoshi play tennis very well. ・ Satoshi is play tennis now.		43.7	5.1	50
10		与えられた語句を並べ替え、正しい文を書く。 A: (notebooks / do / how / you / have / many) in your bag? B: I have five. (1) ＜正答＞ (How many notebooks do you have) in your bag? 〔誤答例〕 ・ How many do you have notebooks ・ How do you have many notebooks		49.4	4.4	60
		A: (sport / do / what / you) play after school? B: I play soccer after school. ＜正答＞ (2) (What sport do you) play after school? 〔誤答例〕 ・ What do you sport ・ Do you what sport		39.3	3.7	
		A: Look at this! It's (a picture / my family / of). B: Wow! It's nice. ＜正答＞ (3) It's (a picture of my family). 〔誤答例〕 ・ my family of a picture ・ of my family a picture		60.5	3.9	

(単位 : %)

表現の能力

問題

- 8 4文以上で自己紹介を記述する問題である。

分析

この問題は平成19年、23年、24年度のさいたま市学習状況調査でも同一の問題を出題している。今年度の正答率は68.9%、無解答率は3.8%であったが、無解答率が年々減少している（平成23年度6.4% 平成24年度4.6%）ことから、書くことに力を入れた指導によって、書くことに対して抵抗感がなくなってきた。また、平成23年度の正答率は75.3%、平成24年度の正答率は75.4%であり、今年度の68.9%と比較すると正答率が低くなっているが、これは、『異なった動詞を使う』という条件を加えたことが要因として考えられる。

誤答としては、「綴り間違い」「冠詞の付け忘れ」「文法を正しく理解していないこと」などが挙げられる。特に文法間違いでは、動詞の使い方を理解していない誤答例が目立つ。

【主な誤答例】

<冠詞>	I have good camera.	I'm junior high school student.
	I'm baseball fan.	I want new bike.
	I'm member of tennis club.	I have a my dog.
	I like dog.(冠詞 a や複数形 s の欠落)	
<スペルミス>	Prease call me Shun.	I enjoy soccer everyday.
	I like storoverly.	I play basket ball.
	I'm threeteen years old.	I am eleven yeas old.
	I wont dog.	
<文法ミス>	I'm play soccer.	She's cook very good. My family are love.
	I like play the piano.	I play swimming. I from Saitama.

指導のポイント

1 「書く活動」を繰り返し取り入れ、基礎・基本を定着させる

英作文は、継続的に練習を重ねていくことが必要である。特に、英作文を指導する際には、教員が個別に確認しながら、生徒一人ひとりの状況に応じた注意点を指摘していくことが重要となってくる。このことによって、個に応じた基礎・基本の定着を促すことができる。また、共通した間違い（Common error）はクラスに提示し、どこが間違っているか、まず生徒に考えさせる活動を取り入れることも必要である。自分自身で間違いに気付く力を身に付けさせることで、基礎・基本を定着させることが期待できる。

2 「作文リレー」等の活動を取り入れて、正しく文を書く習慣を身に付けさせる

主語 **動詞** **形容詞・名詞** でそれぞれ語群カードをつくりその中から、正しい文をつくり黒板に一人ひとり書いていく。時間内に多くの正しい文を書けた列が勝ちとなる。この活動を通して、動詞の扱い方、綴り、冠詞など、細かいところまで注目して英文をつくることができる。

A

I
You
He
She
They

B

am is are
enjoy(s)
like(s)
study(ies)
have(has)
swim(s)
play(s)

C

cool
beautiful
piano
basketball
kind

- 1 A～Cのカードを教室の後ろに大きく掲示し、それぞれの語群から好きな単語を選んで、正しい英文をつくる。ただし、Cの語群は、提示されている語以外を使ってもよいものとする。
- 2 列対抗で、リレーを行い、順番に作った英文を前の黒板に書いていく。
- 3 正しく、多くの英文が書けた列の勝ちとする。

<活動後の黒板例>

I like dogs.
Takeshi plays the piano.
You are beautiful.
He is cool.
Takeshi and Mike swim.
They are kind.
She likes cats.



Takeshi likes dogs.
I am beautiful.
Takeshi is kind.
He likes English.
They has dogs



4

She likes English.
He is cool.
He play basketball.
They likes volley ball.



2

問題

- 9 絵の中の人物（Satoshi）が、今していることを、4語以上の単語を使って英文一文で書く問題である。

分析

9は、絵を見て現在進行形の文で答える問題である。正答率は43.7%で、平成24年度に比べ2.1ポイント上回っているが、無解答率はあまり変わっていない状況である。

誤答例としては、be動詞が抜けているもの、動詞に“ing”が付いていないもの、現在形や過去形で書かれているものが挙げられる。今後の課題として、まず現在進行形の概念を理解させること、文のつくり方を理解させることが必要である。

【主な誤答例】

Satoshi playing tennis / Satoshi is play tennis / Satoshi plays tennis

指導のポイント

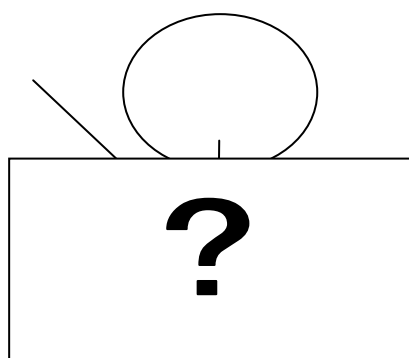
1 映像でイメージをもたせる導入

現在進行形の概念を理解させるために、ICT機器の活用をし、実際の動いている映像を見せ、“What is she doing?”などの問い掛けを行う。そのことで「今～しているところ」という表現を感覚として身に付けることができる。

2 絵や教科書のピクチャーチャートを用いた練習

(1) 興味関心を引き出す活動

絵の一部を隠し、何をしているところかを分かりづらくする。その絵が何をしているところか推測しながら、英語で表現していく。グループ活動で、全員で声を合わせ正しく言えたらポイントをもらえるなどの手法を取ると、さらに積極的に英文で表現しようとする。



T : What's he doing?
Group A : He is fishing
T : No...
Group B : He is teaching.
T : That's right!!

(2) 書く練習

(1)の活動をした後、それを実際に英文で書かせる（または、他の絵を用いてもよい）。書かせたプリントを添削する。Common errorはクラスに提示し、間違いに気付かせる。

3 継続的な指導

教科書の読解の授業においてOral introductionとしてピクチャーチャートを提示する。その際“What's he doing?”などの問い掛けを毎回行うことによって、現在進行形の文に慣れ親しませる。

文法・語順についての理解

問題

- 10 ()の語句を並べ替えて、会話を完成させる問題である。
- (1) A: (notebooks / do / how / you / have / many) in your bag?
B: I have five.
- (2) A: (sport / do / what / you) play after school?
B: I play soccer after school.
- (3) A: Look at this! It's (a picture / my family / of).
B: Wow! It's nice.

分析

10は、会話の流れから考える英作文問題で、和文は与えられていない。正答率は、(1) 49.4%、(2) 39.3%、(3) 60.5%となっている。

(1) で最も多かった誤答は、“How do you have many notebooks” という語順だったことから、まず “How many ～? / いくつの～” という表現と、疑問詞に名詞を付けて表現することが定着していないことが考えられる。

(2) で最も多かった誤答は、“What do you sport” という語順で、(1) と同じ傾向であり、ほぼ半数の生徒がこのような形で間違えている。このことから、疑問詞＋名詞の形は、“How many notebooks” より “What sport” の語順の方が、より定着していないことが分かる。しかし、同じタイプの問題を出題した平成 21 年度と比較すると、今年度は 15 ポイント以上、昨年度よりも 5 ポイント正答率が向上している。これは、英会話や英語の授業における指導の効果とも考えられる。

(3) で最も多かった誤答は、“my family of a picture” という語順である。日本語と同じ語順で単語を並べていることから、of の意味や働き、語順の理解が不十分であると考えられる。ただ、同じ問題を出題した平成 23 年度と比較すると、今年度は 10 ポイント程度正答率が向上している。これは、教科書改訂にともない、A of B の出現率が高くなったことの効果でもあると考えられる。現行の教科書では、A of B の表現は 4 回出てくる。それに比べ以前の教科書では、1 回のみであった。現在の教科書では、特に My Project という 4 技能の力を高めていく単元でよく扱われている。＜例：I am a member of the school band.＞

指導のポイント

1 「What ＋ 名詞」「How many ＋名詞」の形を授業で取り上げ指導する

疑問詞の使い方には “What do you like?” と “What sport do you like?”、“How do you come to school?” と “How many notebooks do you have?” のように、疑問詞のみの形と、「疑問詞＋名詞」がある。生徒にとっては、この 2 つを混同してしまいがちである。教科書では、Program 中の基本文として、あるいは Speaking の単元で提示されている。実際に使用する場面を取り入れながら、繰り返し指導し、定着を図るようにしたい。

2 身近にある後置修飾の“of”の例を挙げ、日本語と英語のイメージをつなげる

生徒にとって、身近な“of”を含んだ表現を提示し、日本語と英語の語順の違いに気付かせる指導も有効である。

<例>

Pirates of the Caribbean	「カリブの海賊」
Power of Music	「音楽の力」
キングオブコメディ	「コメディの王様」

【指導のポイントを踏まえた実践例】

○語順の違いを意識させたい基本文の例を基に、系統的に指導を行う

日本語と英語の語順の違いは非常に大きいので、その違いに慣れることはとても大切なことである。例えば、最初に導入される be 動詞は、I am Yuki. 「私はユキです。」と日本語の語順とあまり大差ない。しかし、一般動詞では、I play tennis every day. 「私は毎日テニスをします。」となる。これについて、英語の語順で意味を並べると「私は／します／テニス／毎日」というように日本語と大きくかけ離れていることが分かる。このことから、語順の違いに慣れさせる指導が大切である。

学年	学習内容	基本文の例
1 年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 副詞 ・ 前置詞 	Tom speaks Japanese <u>well</u> . I come to school <u>by bike</u> .
2 年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接続詞 ・ 不定詞 ・ SVC の文型 ・ 比較級 ・ 受動態 	I think (that) <u>dogs are nice</u> . I was sleeping in bed <u>when you called me</u> . I went to Chiba <u>to see my aunt</u> . I want something <u>to drink</u> . You <u>look cool</u> . Japan is <u>larger than Finland</u> . I think it was <u>the most difficult of all the questions</u> . I like spring <u>better than summer</u> . I like spring <u>the best</u> . It <u>was written by my grandfather</u> a long time ago.
3 年生	<ul style="list-style-type: none"> ・ It is ～ for 人 to … ・ ask 人 to ～ ・ SVOC の文型 ・ 間接疑問文 ・ 現在分詞 ・ 過去分詞 ・ 関係代名詞 	It is hard for me to <u>get up so early</u> . Could you <u>ask him to call me back</u> ? <u>His songs</u> always <u>make me happy</u> . I don't remember <u>when it is</u> . I mean <u>the man sitting on the chair</u> . That is <u>the temple built by Ashikaga Yoshimitsu in 1397</u> . I know <u>the girl who has just walked away</u> . I want to see <u>the pen which is next to it</u> . I know <u>a shop that sells nice cards</u> . It's <u>a special dish which we can eat during the New Year</u> . Have you ever tried <u>the pies that my father bakes</u> ? I'll show you <u>some pictures he took</u> . <u>The baby you're looking at</u> is my father.